

学部留学生を対象にしたオーディオブック読書の試験的導入

脇田里子

要旨

本研究は 11 名の学部留学生（以下、学習者）を対象にした日本語オーディオブック読書の試験的な導入について報告する。学習者の 82%はこれまでに日本語のオーディオブックを利用した経験がなかった。実践の結果、週に平均 1 時間 30 分のオーディオブック読書が行われ、学習者の 72%は自分が設定した目標の 70%以上を達成したと自己評価した。オーディオブックの聴き方は、それだけに集中する者と他の活動を併いながら聴く者に二分化された。指定図書の随筆型と情報提供型のオーディオブックの理解度を比較した結果、情報提供型の方が理解が難しかった。オーディオブック読書による効果について、学習者の自己評価では日本語能力の向上などの肯定的な意見が見られた。今後の課題は聴きやすさのレベル表示の必要性、客観的な日本語能力向上のデータ収集などが挙げられる。

キーワード

オーディオブック、オーディオブック読書、聴く読書、Audible

1. はじめに

昨今、テレビの宣伝などでオーディオブック（Audiobook）という言葉が耳にするようになった。オーディオブックとはプロのナレーターや声優が書籍を読み上げてくれる「耳で聴く本」（audiobook.jp）である。オーディオブックはパソコンだけでなく、タブレットやスマートフォンで聴くことができるため、移動中や作業中など「いつでもどこでも」「効率的に」書籍を聴けるという特性がある。文字を読む書籍の読書と異なり、オーディオブック読書は何かをしながら聴くことができる、つまり、マルチタスクが可能である。

オーディオブックはアメリカで普及しており、2024 年の消費者データによれば、18 歳以上のアメリカ人の半数以上はオーディオブックを聞いた経験があるという（APA2024）。一方、2023 年に 15～69 歳の男女 1,940 人の日本人を対象にしたオーディオブック調査によれば、オーディオブックを利用したことがある者は約 20%、日常的に利用しているのは約 9%であったという（Appliv TOPICS2023）。このように、日本ではオーディオブックの利用率はまだ低い。しかし、市場規模は急速に拡大している。例えば、国内のオーディオブックの市場は 2018 年度には 30 億円程度であったが、2021 年には 140 億円、2024 年度には 260 億円に達する見込みであるという（日本能率協会総合研究所 2020）。そして、公共図書館では 2019 年 11 月以降、大学図書館では 2022 年 5 月以降、オーディオブックの提供が開始されている（図書館に関する情報ポータル 2022）。今後は、文字による読む読書だけでなく、聴く読書が一般化していくだろう。

筆者はオーディオブック読書が学習者の日本語学習にどのような効果をもたらすのかに関心がある。日本語のオーディオブックは日本語母語話者を対象に作られているため、学習者がオーディオブックを聴くには一定レベル以上の日本語を理解していることが前提

となる。日本語による学部の講義を聴いている学部留学生は一定レベル以上の日本語能力をもつと判断し、本研究では学部留学生を実践の対象にする。オーディオブック読書を日常的に利用している日本人の割合が一割弱であったこと、また、日本の大学にはアジア出身の留学生が多いことを考慮すると、学部留学生もオーディオブック読書の経験が多いとは言えないことが推測される。したがって、初めてオーディオブックを聴く学習者が多いことが想定されるため、オーディオブック読書を試験的に導入する。本研究は学習者が一般的にオーディオブックをどのように聴くのかを明らかにすることを目的とする。そして、その結果から本格的にオーディオブック読書を実施するための課題を示したい。

本研究の構成は次の通りである。2.にてオーディオブック読書について配信サービスとオーディオブック読書に関連する先行研究を述べ、3.にて実践方法を説明する。4.にて実践結果を分析し、考察する。5.にて実践結果をまとめ、今後の課題を示す。

2. オーディオブック読書

2.1 オーディオブック配信サービス

公共図書館や大学図書館でオーディオブックの提供が始まっているとは言え、日本では無料で利用できる良質な音声のオーディオブックは普及しているとは言えない。そのため、日本でオーディオブックを利用するには、個人で有料のオーディオブックを購入する、または、定期購読を利用して聴くことが一般的である。最近では自分が読みたいオーディオブックを一冊ずつ購入するのではなく、定期購読し、契約期間中は何冊でも、何度でも聴くことができる「聴き放題プラン」で聴くことが主流になりつつある。

主な有料の配信サービスには、Amazonの“Audible”とオトバンクの“audiobook.jp”がある（表 1、Audible、audiobook.jp）。Audibleの日本語での配信は 2015 年からで、audiobook.jp は 2007 年からである。Audible の会員数は日本を含め 10 カ国で数百万人以上、audiobook.jp は日本国内を対象にし、250 万人以上である。Audibleの配信数は 10 カ国で合計 12 万作品以上、audiobook.jpは日本語による配信で 1.5 万作品以上である。定期購読の月ごとの料金は、Audibleが 1,500 円で、audiobook.jpは 1,330 円である。また、

表 1 Audible と audiobook.jp の比較

オーディオブックの名称	Audible	audiobook.jp
制作・配信	Amazon	オトバンク
配信開始年	日本は2015年（米は1995年）	2007年
会員数	世界で数百万以上	250万人以上
作品数	120,000以上 (米・英・独・仏・豪・日・伊・ 加・印・西の10か国)	15,000以上 (日本、日本語のみ)
聴き放題プラン	1,500円/月	1,330円/月 (年割プラン 833円/月)
再生速度	0.5~3.5倍速	0.5~4倍速
その他	Podcastあり	法人向け定額サービスあり

朗読の再生速度は 0.5 倍から 4 倍速程度まで変更可能である。そして、Audible は Podcast も配信し、audiobook.jp は法人向けに定額サービスも実施している。

2.2 「多聴（多読）教育」と「多聴多観」

日本語のオーディオブックの発行数は右肩上がりに増えてきているが、管見の限り、日本語のオーディオブック読書による教育実践の先行研究はまだないと思われる。オーディオブック読書と関連する分野の「多聴（多読）教育」と「多聴多観」について述べる。

前者の「多聴（多読）教育」は英語教育において実践が見られる。多聴とは「ある一定期間にわたり、理解可能なテキストを楽しみながら多量に聴くことで、リスニングにおける流暢性、リスニング速度の向上を目指す学習方法」を指す（Waring2008、齋藤 2023 など）。「多聴（多読）教育」は多読と同じ手法で多聴を行い、多読と並行して多聴することが多いようだ。多聴教材を選ぶ基準（Waring2008）には、次の四つが挙げられる。①テキストの内容の 90%が理解できること、②使用されている語彙や文法の 95-98%以上が理解できること、③音声を止めずに理解できること、④テキストの内容を楽しむことができること、である。次に、後者の「多聴多観」教育は日本語教育において実践が見られる。「多聴多観」（作田 2021）とは、日本語多読の実践の中で、動画や“YouTube”などを併用していることを指す。コロナ禍以降、授業のオンライン化が進み、多読の授業の中で「多聴多観」を取り入れる動きが広がっているようだ。

今回のオーディオブック読書の実践は、多読教育を基盤にした「多聴（多読）」や「多聴多観」の手法を採っていない。本実践では日本語上級レベルの学部留学生を対象にオーディオブック読書の実態を明らかにし、日本語学習の効果について検討する。

3. 実践方法

3.1 実践概要

オーディオブック読書の実践概要を表2に示す。実践期間は2023年1月末から3月末の8週間で、授業期間外に実施した。実践に協力した学習者は人文系学部留学生11名で、その内訳は、1年生が1名、2年生が10名で、国籍別には中国が5名、韓国が4名、ベトナムが2名であった。実践期間は春期休暇中の2ヶ月間で、この期間に母国に帰国していた学習者は3名

表2 オーディオブック読書の実践概要

1. 実践期間	2023年1月30日(月)～3月26日(日)8週間(2ヶ月)
2. 学習者	人文系学部留学生11名(1年1名、2年10名) 中国5名、韓国4名、ベトナム2名 実践期間の2ヶ月間、母国に帰国した学生3名
3. オーディオブック	Amazon Audible 定期購読を利用
4. 聴き方	オーディオブックを自由に聴く。 2月に随筆1冊、3月に情報提供型新書1冊を聴く。
5. アンケート調査	実践前、中間、実践後の3回
6. 記録シート	オーディオブック読書の目標を各自で立てる。 毎週の記録(読書時間、ジャンル、気づき)を記す。

であった。2ヶ月間、AmazonのAudibleの定期購読を利用し、学習者は自分の好きなオーディオブックを自由に聴いた。そして、1ヶ月に1冊、指定のオーディオブックを聴くように指定した。指定図書を設定した理由は、本のジャンルによって聴きやすさや内容理解に違いがあるかを比較するためである。ここでは随筆型と情報提供型からそれぞれ1冊を指定した。指定図書については3.2にて詳述する。実践前、実践開始の1ヶ月後、実践終了後にアンケート調査を行った。実践前の事前アンケート調査では、オーディオブック読書の経験などを尋ねた。実践開始の1ヶ月後の中間アンケート調査では、随筆型の指定図書の理解度やオーディオブックの聴き方について、実践終了後の事後アンケート調査では、情報提供型の指定図書の理解度やオーディオブックを聴いた後の変化について問うた。実践前に学習者は読書の目標を立て、実践期間中、学習者は週ごとに聴いた時間、本のジャンル、気づきを記録シートに記入した。

学習者は学部1年次の日本語リーディング科目で、1年間に6冊の電子書籍による読書を経験している(脇田2021)。授業で扱った電子書籍は新書や一般書である。また、学部2年次の専門基礎科目において、1年に2冊、大学図書館の専門書の電子書籍を用いて協同学習を行っている(脇田2023)。このように学習者は授業で電子書籍読書の経験を有している。ただし、これまでに学習者は日本語の聴解に特化した授業は受けていない。

3.2 指定図書

本実践では学習者が聴きたい日本語のオーディオブックを聴くだけでなく、1ヶ月に1冊、指定図書を設定した。2月は随筆で、ジョン・タニムラの『世界を旅するうどん屋 完全版』(以下、『うどん屋』と略す)を指定した(表3)。内容はアメリカで幼少期を過ごした筆者が、大学卒業後、世界を旅しながら、手打ちうどんを振る舞うという青年の成長物語である。これを選書した理由は、学習者と同じように異国で異文化体験を続ける内容であり、学習者が共感しやすいと判断したためである。朗読時間は3時間20分で、著者本人

表3 2月の課題図書『世界を旅するうどん屋』(随筆型)

1 書誌情報	ジョン・タニムラ (2023) 『世界を旅するうどん屋 完全版』 Independently published
2 内容	中学から高校までの5年間で米国で過ごした日本人の著者が大学卒業後、世界24カ国を旅しながら、5000人に本格手打ち讃岐うどんを振る舞ったノマドの生き方を記している。
3 選書理由	筆者が異国で様々な困難を乗り越えていく姿は留学生にとって共感することが多く、内容に興味をもつと思われた。
4 朗読時間/ページ数	3時間20分(著者による朗読) / 255ページ
5 jReadability による文章分析	第1章の1,181字の文章分析 文章の難易度: 中級後半(やや難しい) 一文の平均語数: 24.71語 語彙レベル構成: 初級後半26%、初級前半25%、中級前半24% 語種構成: 和語72%、漢語21%、外来語6%
6 備考	書籍には写真が掲載されているが、それに関する説明はない。一つのストーリーが書籍全体に展開される。

が朗読している。日本語文章難易度判断システム“jReadability”を用い、本文の最初の約1,200字程度の日本語レベルを判断したところ、文章の難易度は「中級後半（やや難しい）」、一文の平均語数は約25語であった。なお、書籍には写真が掲載されているが、オーディオブックでは写真の説明は省略されている。

3月は、情報提供型の新書で、国立国語研究所（以下、国語研）が編集した『日本語の大疑問』（以下、『大疑問』と略す）を指定した（表4）。国語研に寄せられた日本語に対する疑問・質問に所員が回答したものである。日本語に関心のある人文系の学習者であれば、日本語に対する疑問をもっている可能性が高いため、選書した。朗読時間は4時間43分で、声優が朗読している。“jReadability”を用い、本文の最初の約1,200字程度の日本語レベルを判断したところ、文章の難易度は「中級前半（ふつう）」であった。ただし、分析した文章の中には、日本語の正誤の判断に迷う単語や接尾辞だけの表記が多く含まれており、それらは単語として正しく認識されず、難易度判定から除外されている。そのため、筆者の個人的な感覚では「中級前半」よりも難しいと感じられた。一文の平均語数は約30語であった。なお、本文全体を通し、例文や解答例の説明は数字を挙げて列挙しているもの（ナンバリング）が多く、書籍には図、表、グラフも多用されていた。

表4 3月の課題図書『日本語の大疑問』（情報提供型）

1 書誌情報	国立国語研究所編（2021）『日本語の大疑問－眠れなくなるほど面白いことばの世界－』幻冬舎新書
2 内容	国語研に寄せられた日本語に関する疑問・質問に国語研の関係者が回答したものを編集したもの（例）「若者ことばの「やばみ」「うれしみ」の「み」はどこからきているものですか。」
3 選書理由	日本語に関する135の疑問とその答えが掲載されており、留学生も日本語の疑問に関心をもつと思われた。
4 朗読時間/ページ数	4時間43分（男性声優による朗読）／270ページ
5 jReadability による文章分析	第1章の1,262字の文章分析 文章の難易度：中級前半（ふつう） 一文の平均語数：29.52語 語彙レベル構成：中級前半28%、初級前半28%、中級後半20% 語種構成：和語75%、漢語24%
6 備考	例文や解答例をナンバリングしているものが多い。 書籍には図、表、グラフがあり、それに関する説明がある。 言葉の誤用に関する疑問では、誤用の日本語も提示される。 疑問ごとに回答者が異なる。

4. 実践結果と考察

4.1 事前アンケート調査と中間アンケート調査

紙幅の都合上、アンケート調査項目の中から主要な項目について取り上げる。まず、実践前に「1. あなたは今までに日本語のオーディオブックを聞いたことがありますか」について尋ねた。これに対する回答は、「ない」が9名（82%）、「ある（1～2冊）」が2名（18%）であった。次に、「2. あなたは今までに母語や英語のオーディオブックを聞いたことがありますか」に対する回答は「ない」が5名（45%）、「ある（1～2冊）」が3名（27%）、「ある

(3~5冊)」が2名(18%)、「ある(10冊以上)」が1名(9%)であった。つまり、日本語のオーディオブックを聴いたことがある学習者は2割弱で、その冊数は1~2冊であった。学習者の母語や英語によるオーディオブック読書の経験を有する者は半数をやや超えた。

次に、中間アンケート調査で尋ねたオーディオブックの聴き方について述べる。「3. オーディオブックは主にどのように聴いていますか」に対する回答は、「オーディオブックだけに集中して」が6名(55%)、「何かをしながら」が5名(45%)であった。いわゆる、ながら聴きよりも、オーディオブックだけに集中して聴く方がやや上回った。日本語の音声に集中して聴く方がやや多かったのは、4.3で後述するように、学習者が日本語音声を取り取り、それをシャドーイングして発音練習したりするなど日本語のスキル学習として利用することが多かったからだと言えよう。

4.2 指定図書の理解度に関するアンケート調査(中間・事後)

本実践では2月に随筆型のオーディオブックを、3月に情報提供型を聴くことを課した。随筆型の内容の理解度について、中間アンケート調査(「4. 『世界を旅するうどん屋』の内容を理解できましたか」)にて尋ねた。また、情報提供型の内容の理解度については、事後アンケート調査(「5. 『日本語の大疑問』の内容を理解できましたか」)にて問うた。内容理解度は学習者の主観的認識の度合いを示すもので、「1…全くそう思わない」から「7…全くそう思う」の7件法で尋ねた。『うどん屋』と『大疑問』の理解度の記述統計を表5に示す。これらの理解度についてWilcoxonの符号付き順位検定を行った(表6)。有意水準は5%とし、統計処理にはSPSS ver. 29を使用した。『うどん屋』と『大疑問』の理解度については有意差が見られた($Z = -2.31, p < .05, r = -.70$)。この結果から、今回の情報提供型のオーディオブックは随筆型のものよりも理解が難しいことがわかる。この理由としては、表4の「6備考」で示した『大疑問』の特徴が挙げられるだろう。例えば、図、表、グラフを見ずに、オーディオブックで説明だけを聴いても十分に理解することが難しい。そして、この書籍の特有のテーマとして本文には言葉の誤用に関する表現も含まれる。誤用表現は日本語として正しくないため、それを聴いてすぐに理解することが困難である。

表5 2冊の課題図書の理解度に関する記述統計

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル		
					25%	50%	75%
『うどん屋』	4.91	1.14	3	7	4.00	5.00	6.00
『大疑問』	4.18	1.17	2	6	3.00	4.00	5.00

表6 2冊の課題図書の理解度に関するWilcoxonの符号付き順位検定結果

	Z値	p	r	効果量
2冊の理解度	-2.31	.02*	-.70	大
* $p < .05$				

4.3 記録シートと事後アンケート調査

実践後に、記録シートに書かれている毎週のオーディオブックを聴く時間を集計したと

ころ、1週間あたりの平均時間は約1時間30分（最短45分、最長約4時間30分）であった。そして、週ごとに聴いたオーディオブックの平均冊数は0.5冊（2か月間で聴いた冊数の最少は2冊、最多は11冊）であった。また、学習者が自由に聴いたオーディオブックには『君の名は。』『夢をかなえるゾウ』『人は話し方が9割』『時をかける少女』『化物語』『同志少女よ、敵を撃て』などがある。アニメ作品や話題の書籍がよく聴かれている。

事後アンケートにおいて、自分が立てた目標（例、オーディオブックを体験して、日本語の聴解力を上げる。哲学についてたくさん本を読む。）の達成度を尋ねたところ、70%以上の達成度と回答した学習者は8名（72%）、70%未満の達成度は3名（28%）であった。達成度が70%未満であった理由には、聴く時間の確保の難しさが挙げられていた。

オーディオブックを聴いた後の変化について自由記述で回答を求めたところ、オーディオブックを集中して聴いた学習者からは次のようなコメントが述べられた。「帰国中、日本語の環境を維持でき、日本語力を維持できた。／帰国中、毎日、聴いたので日本語の力はむしろ伸びた。／聞きながら、シャドーイングの練習をしたので、発音やイントネーションの話す力が伸びた。本がある時は、スクリプトも見た。」日本語を正確に聴くスキルや話すスキルの学習のために、オーディオブックを聴くという聴き方について、筆者は想定していなかった。特に、帰国中、日本語から隔離された環境で、毎日、集中して聴き、日本語力を維持、向上させることができたことは素晴らしい。一方、ながら聴きの学習者からは次のような所感が述べられた。「読書に関心が無かったが、オーディオブックなら読書する気が湧いてきた。／作業やスポーツをしながら、好きな作家を聞くようにした。完全に集中できないが、他の事をしながら知識を得ることができる。／普段、使わない単語、熟語、日本の話題やニュースを知るようになった。」学習者によっては、文字よりも音声による情報収集の方が長けている者もいる。そうした学習者にとって、アクセシビリティの点からもオーディオブックは重要な情報源になるだろう。ながら聴きの場合、話されている内容を大まかに理解し、学習者にとって必要な情報を収集する聴くスキルを磨いている。その結果、日本や日本人についての理解を広げることにつながっているようだ。

5. おわりに

本研究では、春期休暇の2ヶ月間、学部留学生11名によるオーディオブック読書の試験的な導入について述べてきた。実践前に日本語オーディオブック読書を経験した学習者は18%であった。そして、母語や英語でのオーディオブック読書の経験を有した学習者は55%であった。オーディオブックの聴き方については、「オーディオブックに集中して」聴く学習者が55%、「何かをしながら」聴く学習者が45%だった。これは日本語を正確に聴き取るなどのスキル学習を目的にしている学習者の方がやや多かったことを意味する。また、ながら聴きの学習者は別の行動をしながら、必要な情報を収集するスキルを磨いていると言えよう。

指定図書 of 随筆型と情報提供型のオーディオブックを聴いた後、内容の理解度を問うアンケート調査を行った。今回の随筆型と情報提供型の理解度について Wilcoxon の符号付き順位検定を行った結果、有意差が見られた。つまり、今回の情報提供型は随筆型よりも理解が難しかった。その理由には、図、表、グラフなどが含まれた書籍は視覚資料を見ずに、その説明だけを聴いても理解することが難しいことが挙げられよう。

1 週間あたりのオーディオブック読書の平均時間は 1 時間 30 分だった。実践前に立てたオーディオブック読書の目標に関して、その目標の 70%以上を達成したと自己判断した学習者は 72%であった。さらに、2 か月間オーディオブックを聴いたことによる変化について、日本語力全般の維持・向上、日本語の音声面の向上、聴く読書の相性の良さの発見、マルチタスクによる情報収集など肯定的なコメントが多かった。

これらの結果から、本格的にオーディオブック読書を実施するために三つの課題を示したい。一つ目は聴きやすさのレベル提示である。書籍の読みやすさとオーディオブックの聴きやすさは必ずしも同じとは言えない。とりわけ、図、表、グラフの視覚資料について、本文を読む時には図表を見ながら理解できても、図表を見ずに説明を聴くだけでは理解することは難しい。オーディオブックの情報として、語彙・文法などの日本語レベル以外に、聴きやすさレベルの提示が望まれる。二つ目は日本語力向上のデータ収集である。学習者の自己判断による読書の効果だけでなく、オーディオブック読書を通じた日本語能力の向上を示す客観的なデータの収集が望まれる。三つ目は今回の実践から得られた学習者の読書活動に関する問題点の改善策である。例えば、ある学習者は生活の中でオーディオブック読書を行う時間を決めていなかったため、聴く時間を確保することが難しかった。読書活動を維持するためには読書時間を意識的に確保する必要があるが、その重要性について学習者に注意喚起したい。こうした課題を解決しながら、オーディオブック読書の実践に取り組みたい。

(脇田里子わきたりこ・同志社大学)

謝辞

本研究では科研費（課題番号 25370573）の成果物である「日本語文章難易度判別システム」(<http://jreadability.net>) を利用した。また、本研究は JSPS 科研費（課題番号 21K00637）「デジタル時代のリーディング・リテラシーを支援する読書教育プログラムの開発」の助成を受けている。

参考文献

- 齋藤雪絵（2023）「大学英語授業での多聴の試験的導入に関する実践報告」『マテシス・ウニヴェルサリス』24(2), 181-198.
- 作田奈苗（2021）「オンラインでの日本語多読授業における多聴多観の促進」『日本語教育方法研究会誌』28(1), 50-51.
- 図書館に関する情報ポータル（2022）「株式会社オトバンクと丸善雄松堂株式会社、大学図書館等にオーディオブックの提供を開始」 <<https://current.ndl.go.jp/car/46239>>（2024 年 6 月 20 日閲覧）
- 日本能率協会総合研究所（2020）「オーディオブック市場 2024 年に 260 億円規模に」 <<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000015.000035568.html>>（2024 年 6 月 20 日閲覧）
- 脇田里子（2021）「デジタル社会における学部留学生に対する読書リテラシーの授業実践」『専門日本語教育研究』23, 11-18.
- 脇田里子（2023）「大学図書館電子書籍による読書リテラシー実践—Maruzen eBook Library

実践報告

脇田里子/アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル 16(2024)1-9

を利用した協同学習一」『日本語プロフィシエンシー研究』11, 59-75.

APA:Audio Publishers Association(2024) *APA Sales & Consumer Data*, <<https://www.audiopub.org/surveys>> (2024年6月20日閲覧)

Appliv TOPICS (2023)「オーディオブック実態調査」<<https://mag.app-liv.jp/archive/145781/>> (2024年6月20日閲覧)

Audible<<https://amazon-press.jp/Audible/Audible.html>> (2024年6月20日閲覧)
audiobook.jp<<https://audiobook.jp/>> (2024年6月20日閲覧)

jReadability<<https://jreadability.net>> (2024年6月20日閲覧)

WARING, Rob(2008) Starting extensive listening, *Extensive Reading in Japan*, 1, 7-9.